

# 小樽ゆねすこ



United Nations  
Educational, Scientific and  
Cultural Organization



小樽ユネスコ協会

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

(ユネスコ憲章前文より)

**2019年4月—小樽ユネスコ協会は  
設立70周年を迎えます！**

**2019年6月1日(土)**

- 16:00より記念式典／於 ニュー三幸
  - ・第44回英語祭特別賞受賞者  
2名のスピーチ披露
  - ・ユネスコスクール実践発表
- 17:00より記念祝賀会
  - 鏡開き、祝宴
  - アトラクション ゴスペルグループのコーラス
- 70周年記念誌作成!!



第44回 英語祭 受賞者のみなさん (市長・教育長・審査員の先生方と)

## ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

## 平成が終わる

会長 丸田 謙二郎



昭和の大戦で焼け野原と混乱を経験した国民は、戦後の復興にひたすら働き、困難に耐え国際社会での信頼回復のために尽力してきました。そして経済力をつけ、エコノミックアニマルと揶揄されながらも、めげずに教育・科学・文化も充実させてきました。そして昭和の時代が終わり平成も残り少なくなりました。

平成を振り返って、「戦争がなかったことで安堵している」と語られた天皇陛下のお言葉は国民一人ひとりも心から実感したことでした。戦争に正しいものなどない。勝っても負けても戦争は人間の尊厳を否定し自然環境を破壊してしまう絶対的な悪であります。

第2次世界大戦の反省のもとに国連ができ、その専門機関としてユネスコができました。そのユネスコ憲章の前文は戦後の日本人の心に深く沁みるものでした。

仙台に世界のどの国よりも早く、ユネスコ精神を民衆運動として「仙台ユネスコ協力会」ができたことは、まさに画期的なことでした。その後日本各地に次々とユネスコ協会ができ、小樽は道内で札幌に次いで二番目に設立されました。1949年のことです。

ユネスコ憲章は高らかに宣言しています。「戦争は人の心の中に生まれるものであるから人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と。また、「それぞれの国の風習や生活を理解し尊重することが、疑惑や不信を取り除いていくことになる。そうすれば、戦争を回避し、世界平和につながる」とも書かれています。

固有の自然環境や生活の営みを尊重していくことを、私たち一人ひとりの心に常に新たに確立していくことが求められているのであります。

# 「小学3年生からの英語講座」を終えて

丸田 謙二郎

「小3からの英語」を昨年に引き続き、5月28日から計8回、生涯学習センターレピオで実施した。参加者は7名と少なかったが、アルファベットや身近かな単語を発表したり質問するなど、明るい雰囲気であった。

本講座の動機づけとして「なぜ小学生から英語をやるようになったのか、英語を母語としている国は？」など質問した。そして、世界の多くの言語の中で、貿易や国際会議などで英語が共通語として使われていること、各国の伝統や文化を理解し尊重するユネスコ精神に触れ英語の重要性を強調した。時に話が難しいかとも思ったが、いずれ理解してくれると思っている。小樽ユネスコ協会も創立(1949)から70周年を迎える。この活動を次世代につないでいく使命がある。少人数とはいえ、本講座が子ども達にとって平和な世界を築く一助になることを念じる次第である。

## 小3からの英語講座にかかわって

理事 石田 力雄

「小学校3～4年生に英語講座を」という場面に出くわしたとき、どのようにすすめたら英語に対する理解が深まるのだろうか?と考えた。

まず小3の子どもに「どうしてこの講座を受ける気になったの?」と聞いてみた。

「英語を話す人を見てかっこいいと思った」「外国へ行ってみみたい」などであった。純粋な気持ちの表れだと思った。私はこの時、英語の入口の段階で興味を失わせてしまうような愚だけは避けようと思った。そこで、私が発音しながら板書してそれをノートにしっかり書かせ、彼らの記憶に残るものとした。「耳と目と手と口」のフル操業である。またアルファベット26文字は、「歌」で覚える方法がより効果的だと思った。また、予め日本語で内容のわかった絵本をやさしい英語でCDなどで聞かせるのもいいのではないだろうか。

小3は、20分が集中力の限界。しかしゲームは1～2時間でも集中できる。それは興味を持っているから。だから英語も興味を持って集中できる時間を大事にしたい。興味・興味・興味が小3のキーワードだ。

## 市立小樽図書館 ユネスコ世界文庫

昭和49年から毎年継続している市立小樽図書館への図書寄贈は、今年度も9冊(2万円相当)の新刊図書を加えて、これまでの寄贈累計は1829冊となりました。

国際的な視野涵養に役立つものというテーマで選定した今回の寄贈本は次のようなものです。

# 小学5年生からの英語講座

理事 星 功

小樽ユネスコ協会では2020年から始まる小学校英語教育に先駆けて、過去二年間にわたり、夏季間に小学生向けの英語講座を開きました。小学校5・6年クラスは全コースを通して英語だけで行い、ユネスコ協会英語部スタッフによるteam teachingを主体とし、生徒が初めて英語に接することを想定したカリキュラムを作りました。英語は何といてもまず発音が問題となります。更に日本語と英語では文脈が異なり、したがって発想に大きな隔たりがあります。ですから、私どもは子供たちが英語を恐れることのないように、ネイテヴが普段の生活に使う英語表現に重点を置きました。

最後の4回は実際に小樽市のALTを招いて授業を行い、英語の歌、簡単なゲーム、1対1でのやり取りなどで盛り上げさせました。小学校5・6年生は理屈ではなく、暗記力が旺盛で反応が早く、特にネイテヴであるALTと接した時も、学んだ表現を自由に使い、交流に花を咲かせました。

参加した子供たちの中には小樽ユネスコ協会が主催する「小樽ユネスコ英語祭」にも参加し、優秀な成績を取めたことは一つの成果でした。

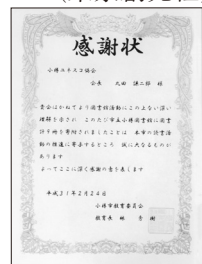
最後までがんばったよ



Do you like...?



- はかりきれない世界の単位 (創元社)
- 世界の郷土菓子 (河出書房新社)
- 奇妙な孤島の物語 (河出書房新社)
- わたしの町は戦場になった (東京創元社)
- 世界の美しい名建築の図鑑 (エクスタレッジ)
- 世界の戦争廃墟図鑑 (原書房)
- 奇妙で面白い!生き物たちの不思議な世界 (学研プラス)
- 怖い橋の物語 (河出書房新社)
- <超・多国籍学校>は今日もにぎやか! (岩波書店)





# 第44回ユネスコ英語祭実施報告

英語委員長 吉田 道夫

小樽ユネスコ協会が誇る伝統ある事業第44回英語祭ですが、今年は締め切り2日前で申し込み数が僅か4名ということで、開催が危ぶまれる事態がありました。しかしその後13名の申し込みがあり何とか開催にこぎつけました。思い返すと12～3年前にも困った事態がありました。それは、市内の小中学校にインフルエンザがまん延し、出場者が少数に止まった年でした。

今回の出場者は、暗唱の部2名、スピーチ8名、対話・劇の部2組7名という内訳でした。

開会式は丸田会長の挨拶、迫市長、林教育長の来賓挨拶があり、今回は当会維持会員でもある中村裕之議員が現在文部科学省政務次官に就任して活動している旨の特別スピーチもいただきました。

出場者17名の発表は例年と比べても良好でした。特に2019年の小樽ユネスコ協会70周年行事の中で、英語祭出場者の中から英語によるスピーチ披露を予定しており、小樽ユネスコ協会会長賞の静修高校2年澤本佳奈さんと市長賞に輝いた西陵中1年佐竹小雪さんが選ばれております。

澤本さんは「残念なことと感謝すること」と題して、カナダのバンクーバーにホームステイした時の様子を語り、佐竹さんは「ダニーデンでのすばらしい体験」と題してニュージーランドの自然の美しさに感動したことなどを述べていました。

又、今回は6名のALTが全面的に協力して下さり、審査員として2名、特別スピーチを3名、発表終了後のゲーム等交流の進行を3名が中心となって動いて盛り上げてくれました。ありがとうございました。

次年度第45回ユネスコ英語祭は10月27日(日)小樽市公会堂において実施する予定となっております。

たくさんの児童生徒の皆さんに参加していただけることを期待して止みません。



## 2018年 第44回小樽ユネスコ英語祭特別賞 入賞者一覧

賞名	部門	氏名	学校・学年
小樽ユネスコ協会会長賞	スピーチ	澤本佳奈	札幌静修高2年
小樽市長賞	スピーチ	佐竹小雪	西陵中学校1年
小樽市教育委員会教育長賞	スピーチ	梶原のん	高島小学校5年
国際ソロプチミスト小樽会長賞	対話・劇	佐藤 藤広 藤 巧 望	稲穂小学校2年 稲穂小学校4年
北海道新聞社賞	対話・劇	木村 海生 葵良 小牛 頭春 桜 石 川 春 翔 石 川 春 翔	朝里小学校2年 桜小学校3年 桜小学校3年 桜小学校4年
STV賞	スピーチ	長谷彩未	稲穂小学校4年
努力賞	スピーチ	吹田美羽	桜小学校5年
努力賞	スピーチ	吹田遼羽	桜小学校3年
努力賞	スピーチ	石森彩渚	稲穂小学校5年
努力賞	スピーチ	石森裕佳	稲穂小学校3年

## あなたもユネスコの仲間！

### ◎ユネスコ活動って？

第2次大戦終結後、国連にUNESCOが設立され、善良な隣人として互いに平和な生活ができる世界をつくるため努力しようと「ユネスコ憲章」が定められました。その理念や精神に共鳴した人々によって、1947年、世界に先がけて仙台から発信されたのが、市民の立場でUNESCOを支援していこうという民間ユネスコ運動です。

民間ユネスコ団体は、100ヶ国に約4,000あり、現在、日本国内には280協会、道内には20のユネスコ協会があります。

### ◎小樽ユネスコ協会

北海道では、1948年に札幌で、翌49年に小樽ユネスコ協会が道内2番目に発足しました。以来、全国のユネスコ協会と力を合わせて世界寺子屋運動や東日本大震災子ども基金の継続的な支援に協力し、英語教育やコミュニケーションの分野にも力を入れて取り組んでいます。

### ◎いつでも入会できます。

・年会費 4,000円（正会員） 5,000円（維持会員）  
10,000円（賛助会員）

- ・ホームページ <https://otaru-unesco.jimdo.com/>
- ・e-mail [otaru@unesco.or.jp](mailto:otaru@unesco.or.jp)
- ・問い合わせは TEL 54-2075 安達

### ◎書き損じハガキ…は何の役に立ってるの？

民間ユネスコの主要な活動である世界寺子屋運動支援のため、書き損じハガキや未使用テレカを寄付していただき、企業の協力で現金化して寺子屋の建設や学用品の購入、大人の職業訓練などに使われます。

通年回収しています。ご協力をお願いします！

# 第3回「絵で伝えよう私の町のたからもの」 ユネスコ絵画展

実行委員長 安達 久美子

青少年へのユネスコ活動普及を目的として、地域の自然・文化・歴史など身近かなものの中から子ども目線で「大切なもの」を見つけ絵に描いて伝えてもらおうと始まったユネスコ絵画展第3回目を開催、12月15・16日の2日間小樽市美術館市民ギャラリーでの作品展示公開をもって無事終了しました。

今回はまず8月末に作品募集案内を、11月に再度受け付け開始予告の文書を市教委を通して配布、後援も市教委、市P連に加えて道新からもいただける事となり、回を重ねる毎に事業の充実も図られてきました。

現在数多くの絵画展が企画されており、それに対して学校では写生会など絵を描く機会が減ってきているとの情報もある中、ユネスコ絵画展は前回を上回る63点の作品が集まりました。

今回学校としての応募は6校ですが、内3校は初めての応募であり、松本絵画教室のご協力も大なるものがありました。

作品内容も、建物・景色・小樽のイベントなど多彩で力作が多く、市民ギャラリーでの公開日には、出品児童のご家族・友達・学校関係者をはじめ約200人近い市民のみなさまが来場して下さいました。

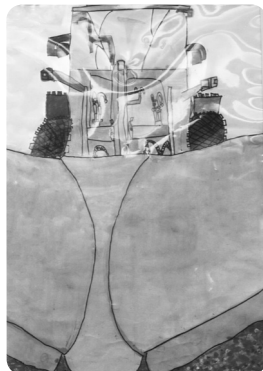
今回も「わが町小樽」には、未来に残したい皆さんの「たからもの」があることを再認識させられた絵画展となりました。

次回以降も、子ども達のすばらしい作品に出会えることを期待して継続したいものです。

ただ事業実施に際しては、各学校への作品受け取りと返却・審査会の実施・美術館での展示と撤去作業など多くのマンパワーを必要とします。会員の皆様の一層のご支援ご協力をお願い致します。



秋の神社



お父さんのタイヤシヨベル



天狗山の夜景



雪あかりの路

## 書き損じハガキ回収キャンペーン

今年度も ご協力  
ありがとうございました!

2018年度も、ユネスコスクール高島小学校をはじめ会員の皆さまから、ハガキ、切手などをお寄せ頂きました。



3月末に集計し、日本ユネスコ協会連盟を通して世界寺子屋運動支援に使われます。これからも、ご支援ご協力をよろしくお願い致します。

ハガキ、切手(未使用)以外にプリペイドカード、商品券、図書券なども回収しています。

## 受賞作品一覽

- ☆小樽ユネスコ協会会長賞  
「秋の神社」 小樽市立銭函小学校5年 長出芽<sup>イネ</sup>依奈
- ☆日本ユネスコ協会連盟会長賞  
「天狗山の夜景」 小樽市立潮見台小学校6年 渡邊 愛華
- ☆小樽市PTA連合会会長賞  
「雪あかりの路」 小樽市立望洋台小学校4年 斉藤 紀歩
- ☆北海道新聞社賞  
「お父さんのタイヤシヨベル」 小樽市立桂岡小学校3年 青山 柚羽
- ☆優秀賞(10名)  
「青のどうくつ」 小樽市立朝里小学校4年 福島 遥斗<sup>ハルト</sup>  
「小樽の温泉」 小樽市立幸小学校2年 小山内一華<sup>イチカ</sup>  
「ひまわりと小人」 小樽市立銭函小学校2年 大島 悠<sup>ハルカ</sup>  
「だいこんをぬく人」 小樽市立銭函小学校4年 秋田谷優心<sup>ヒロト</sup>  
「思い出のグランド」 小樽市立朝里小学校6年 花畑 希輝  
「電柱のある風景」 小樽市立桂岡小学校5年 飯村 淳也  
「しょうぼうしゃ」 小樽市立花園小学校1年 三上 璃子  
「校内の電柱と風景」 小樽市立望洋台小学校5年 坂井杏花里  
「嵐の中の電柱」 小樽市立望洋台小学校5年 金井駿乃介<sup>リサ</sup>  
「力強いシヨベルカー」 小樽市立銭函小学校3年 小野 里桜



## 第9回カレンダーリサイクル市を終えて

環境委員長 丸田孝子

今年度で第9回目となったカレンダーリサイクル市は、1月11・12日に総合福祉センターで、13・14日長崎屋公共プラザにて開催しました。カレンダーは、札幌ユネスコ協会に寄贈される膨大なカレンダーの中から一部分を小樽にも分けていただいています。

札幌“かでる2・7”での収集作業に参加して、小樽の方が喜んで下さるものと思いながらひたすら一部一部袋をはずしカレンダーの癖を直し箱詰めすること段ボール50箱超。それを小樽に運び込んできます。

当日、福祉センター4F会場入り口にはオープン前から大勢の人々が列をなして来場して下さいました。この催しを始めたころ、福祉センター会場はわざわざ出かけてなくてはならない場所ですから、長崎屋の人通りの多さとは来場者数に歴然と差がありました。今年の福祉センター会場は、本当にわざわざ足を運んで来て下さる方が多く、一日目は長崎屋と引けを取らない賑わいになりました。日程の問い合わせも年を追うごとに多くなっています。

福祉センター会場は広い場所でゆっくりと選べる良さがあ、長崎屋は駅前の利便性やお買い物のついでに気楽に立ち寄れる良さがああります。どちらの会場ともユネスコ会員が笑顔で対応するよう努めています。

ご協力いただいた売上金は、世界寺子屋運動、市立小樽図書館ユネスコ世界文庫への図書寄贈、東日本大震災ユネスコ奨学金への支援募金他ユネスコ活動に充てております。

小樽ユネスコ協会は2019年70周年を迎えます。これまでさまざまな活動を展開してまいりましたが、近年では、この催しは多くの会員が揃って活動するコアアクションとして当面の課題や要請に応じる重要な役割を担っています。

ご来場ご協力くださいました皆様に心からお礼を申し上げますと共に、今後共一層のご理解ご支援を重ねてお願いいたします。

### ご協力ありがとうございました！

小樽市内の企業、団体、個人のみならずからもカレンダー類のご寄贈をいただきました。(敬称略)

中央バス株式会社・日本製粉小樽工場  
北陸銀行・市立小樽病院薬剤部  
小樽みなとライオンズクラブ・(株)高野冷機工業所  
市立小樽図書館・北斗印刷 他 個人のみならず



### 自力でカレンダーリサイクル市を!!

事務局長 田澤真弓

今回で9回目を迎え、リピーターも増えて両会場とも行列のできる売り場になりました。私たちが並べる前からどんどん人が押し寄せて「カレンダーが足りなくなるのでは？」と心配になるほどでした。「これ使ってください。」と企業や個人の方々が直接売り場に持参して寄付してくださり、自分のためにカレンダーを選んで買い求めるという現象が近年多くなりダブルで大変助かっています。先日も町を歩いていたら「カレンダーの人だよね?」「来年も楽しみにしているよ!」と声をかけられました。そのお客様は9年間皆勤賞でお買い上げいただいている方でした。

毎回長崎屋会場では手狭でお気に入りを探すのが大変でお客様にご迷惑をかけていましたが、売り場を工夫して両サイドから選べるようにし、絵や写真イラスト物などと文字のみを完全に離れたことによりゆっくりお好きなものを探しやすかったのではないかと思います。

両会場とも売れ筋は日めくり、ペット、花、文字が大きくはっきりとしたものと続きます。今年も札幌ユネスコ協会の協力で、売り場に並べる前収集の段階で「小樽さん欲しいもの確保して荷造りしていいですよ」と親切に声をかけていただき、欲張ってあれもこれもといただけてきました。いつか小樽ユネスコ協会の力で自立して開催し、世界文庫、寺子屋運動、東日本大震災「ユネスコ協会就学支援奨学金」などに寄付したいと会員一同頑張っています。

## 大会参加報告①

第74回日本ユネスコ運動全国大会in函館

- ◎日時 2018年7月7日(土)～8日(日)
- ◎会場 函館市芸術ホール 他
- ◎テーマ 広げよう 平和・共生の心  
～北の大地から次世代へ～

全国大会の道内開催は第70回の知床大会以来であり、全国のユネスキャンが一堂に会して様々な情報交換や交流があることを期待し、小樽からは丸田会長をはじめ6名で参加しました。

昨年の全国吹奏楽コンクールで金賞を受賞した北上市立上磯中学校吹奏楽部によるオープニングコンサートに長旅の疲れを癒やされ、2日間の大会がスタートしました。

開会式セレモニーの後「文明の心、未開の心～人口減少時代における幸福を考える」と題した基調講演(北海道博物館館長石森秀三氏)があり、歴史や考古学的な視点から、現在の我々の生活を再考する糸口が示されました。

さらに、テーマに沿ったパネルディスカッション、函館野外劇を映像との構成劇で見せる趣向や、ESD活動報告として市立日新小学校や七飯高校の取り組みなどの発表が続き、その夜の交流懇親会はホテルの会場があふれんばかりの参加者でした。

2日目も「縄文文化／レジリエンスと多様性」と題した特別講演(道・文化局 縄文世界遺産推進室阿部千春氏)からはじまり、パネルディスカッションなど充実したプログラムが用意されていました。開催までの函館ユネスコ協会の皆様のご尽力に敬意を表したいと思います。

又、大会には、中国ユネスコ協会クラブ連盟、韓国ユネスコ協会連盟などからたくさんの会員が来日、出席していたことをつけ加えておきます。(文責 安達久美子)



## 大会参加報告②

第52回北海道ユネスコ大会  
2018年度 北海道ブロックユネスコ活動研究会

- ◎日時 2018年10月14日(日)
- ◎会場 札幌市「かでの2・7」
- ◎テーマ 広げよう 平和・共生の心  
～地域ユネスコ活動の活性化をめざして～

7月に行われた函館大会(全国大会)とのかね合いで、今年度の全道大会は、札幌において13時から17時の半日日程の開催となりました。

まず、日本ユネスコ協会連盟鈴木佑司理事長が「民間ユネスコ運動がすべきこと、できること」と題した基調講演を行ない、後半の「地域ユネスコ活動の活性化」をテーマとしたフォーラムでは、小樽と北広島のユ協・ユネスコスクール2校の発表がありました。小樽からは外園知代理事が「ユ協活動の継承を見据えて」ユ協の現状と今後に向けて重視していることを発表しました。又、2018年11月末に3年間の任期満了を迎える安達国内委員が任期最後の国内委員会報告をしました。

なお、小樽からは4名の参加でした。例年より短時間の開催ではありましたが中身の濃い大会となりました。



フォーラムで発表する外園理事

### あとかぎ

70年の歴史を刻む小樽ユネスコ協会。多くの先輩達が平和への歩みを今日に繋げてくれました。地球上には今なお紛争や内戦・反目が絶えず、複雑な要因や思惑が絡み合っただけでその解決は容易なことではありません。しかし、地球市民として、人間の存在を持続させるためには、大きな視野をもって全世界の人々が手を取り合っただけでいかなければならないことは明白です。SDGsとユネスコ——学習から実践へ、できることから一歩踏み出しましょう！

広報委員 田澤真弓・安達久美子

会報「小樽ゆねすこ」第33号  
2019年3月31日発行

小樽ユネスコ協会

事務局 小樽市花園5-10-1  
小樽市教育委員会 生涯学習課内